

―連携取組で育てたい人材像とは。

この取組で目指すのは、臨床情報医工学の知識と実践力を有する高度専門医療人、バイオインフォーマティスト、医療情報を安全に提供できる人材の育成です。

―そのような人材を必要とする背景には、どのような課題があるのでしょうか。

我が国の医療水準は確実に進歩を遂げてきましたが、臨床医学・医療分野の更なる発展とその社会貢献には旧来の医療系研究の手法だけでは不十分であり、広島地域では医療系・情報系・工学系の異分野融合教育を受けた人材が不足しています。―なぜこの4大学で連携することになったのですか。

連携4大学は広島市近郊に位置しており、医療系に強みを持つ広島大学・広島国際大学、情報系に強みを持つ広島市立大学、工学系に強みを持つ広島工業大学がそれぞれの特徴を活かして連携することで、異分野融合教育を展開します。

―取組は5年間実施します。どのような計画を立てていますか。

平成24年度は運営体制構築、カリキュラム整備に努めます。平成25年度から学生募集を開始し、学部生は連携4大学が提供する講義・演習の他、早期医療体験実習・病院実習・合同合宿研修・成果発表会等の授業科目を平成28年度までの4年間で受講します。4年生となる平成28年度にはプログラムを通しての到達度を評価します。また、取組の期間終了後には、4年間の学士課程を修了した学部生の中から大学院進学者を迎え、学士課程・大学院課程継続型教育を引き続き実施します。

―この事業に採択されたことで、新たにどのようなことができるようになりますか。

この取組では、学士課程・大学院課程における到達目標を明確にした4大学共通カリキュラムの構築を目指します。4大学併せて学部生では1学年30名程度、大学院生では1学年10名程度の学生受入を想定しています。また、連携機関である企業・自治体・NPO法人から、育成する人材像について助言を得て、取組内容に反映させる仕組みを構築します。

―取組の中には、各大学等でこれまで行っていた活動のレベルアップを図るものもあると思いますか、それはどのようなものですか。

学生が自ら学ぶ学修環境の充実を図ります。そのため、臨床実習やインターンシップによる現場体験を重視しており、学生は、その中で得られた課題を分析し、解決策を導き出す過程を学びます。さらには、異分野学生との活発な交流により、専門分野の能力を活かしながら、多職種チームの中で自分の果たすべき役割を考えることができます。―連携の成果はどのような形で社会に示すことができるのでしょうか。具体的な成果指標のイメージはありますか。

学生は、能動的学修姿勢、先進医療チームにおける実践力を身につけることができます。平成29年度には、4年間のプログラムを修了した学部生20名を目標に、地域社会に送り出します。広島地域の自治体・企業・NPO法人に多くの高度専門医療人を輩出できるよう邁進して参ります。

## ステークホルダーからのメッセージ

特定非営利活動法人

総合遠隔医療支援機構 理事長

井内 康輝

広島地域においては、異分野融合教育を受け、臨床現場で活躍できる人材がまだまだ不足しているのが現状です。4大学が連携して新たな共通カリキュラムを実施し、先進医療をチームで担うことができる人材を育成することは、地域の発展には欠かせないものと考えています。本取組には評価委員として参画し、地域で真に求められる人材像を伝えていきたいと思っています。この取組を通じて、広島地域における医療の発展と社会貢献に繋がることを大いに期待しています。

